



電車どおり

令和元年7月25日発行 第167号

函館中央病院

発行責任者 本橋 雅壽

基本方針

- 道南の基幹病院として急性期医療に取り組みます。
- 断らない救急医療を実践し、住民の信頼と期待に応えます。
- 総合周産期母子医療センター及び北海道がん診療連携指定病院として高度で専門的な医療を提供します。
- 「患者さまの権利」を尊重し、安心して安全なチーム医療を実践します。
- 医療環境の発展と充実のため、地域の行政・医療機関との連携を強化します。
- ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりと人材育成に力を入れます。



総合周産期母子医療センター、北海道がん診療連携指定病院、北海道小児地域医療センター、日本医療機能評価機構認定施設

脳神経内科の紹介

高齢化に伴い増加する神経変性疾患

脳神経内科では、脳と脊髄、末梢神経、筋肉の病気を内科的に診療しています。精神科や心療内科と間違われますが、それとは異なる診療科です。脳神経内科で診療する病気には多くの種類があります。病状のもとになる病変の部位や性質によって症状も異なるので、神経の病気は診断が難しいとよく言われます。

函館中央病院では令和元年より脳神経内科外来を開設しました。脳神経内科の診察には時間がかかります。外来は予約制として、かかりつけ医の先生から紹介された患者さんを診療しています。人口の高齢化に伴い、パーキンソン病、認知症などの神経変性疾患が増えています。さらに指定難病には難治性神経疾患が多数含まれています。

当院は市内の医療機関と協力して地域の神経疾患医療に貢献することを目指しています。



脳神経内科 佐々木 秀直 医師 (名誉臨床顧問)
 昭和53年 北海道大学卒業後、道内外の病院で勤務。
 昭和62年に北海道大学神経内科医員として勤務し、
 平成15年7月から平成31年3月まで北海道大学
 神経内科教授(2代目教授)を歴任。
 平成31年4月より名誉臨床顧問として当院へ着任。

7月28日(日)は市民公開講座へ

日本子ども虐待医学会学術集会 in HAKODATE

当院小児科 石倉亜矢子 医師 が大会長を務め開催される日本子ども虐待医学会学術集会では、市民の方々にも子どもの虐待について考え、学び、理解を深めてもらうための公開講座を開催します。

虐待が身近な問題であることを感じ、居場所がなく絶望している子どもたちに、大人は何ができるのかを一緒に考えてみませんか。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

日時：2019年7月28日(日) 15:30～
 場所：サン・リフレ函館 (函館市大森町 2-14)
 講師：坂本 新 (NPO法人人身取引被害者サポートセンターライトハウス事務局長)
 講師：橋 ジュン (NPO法人BONDプロジェクト代表)
 参加：無料・事前申し込み不要

中央・病・院・前

汗が止まりません！
 あまりにも汗の量が多いからか周りから「すごいね・・・」との声が。



だらだら汗をかくと不潔な感じもあり、ちょっと恥ずかしい時もありますが、私は昔から体を動かし汗をかくことが好きです。私のかく汗は、一生懸命体を動かし私らしく生きている証なのです(たまに冷や汗もかきますけど～)。さて、いよいよ夏の行楽シーズン到来です。旅行やレジャーの計画をされている方も多いことでしょう。体調管理、交通事故にはくれぐれも気をつけ、皆さまにとって健康で楽しい夏になることを願っております。私は気持ち良い汗を沢山かいて、美味しいビールを楽しみたいと思います。

「医療福祉連携士」という資格

～退院支援に付加価値を～

当院の総合医療支援センターでは、患者さまの入院支援や退院支援、医療福祉に関する相談及びがん患者さまへのサポートなどを行っております。この度、総合医療支援センターで主に退院支援や相談業務に携わる奥山退院支援看護師と木村医療ソーシャルワーカー(社会福祉士)の2名が「医療福祉連携士」という資格を取得しました。

患者さまの病院での治療が一段落し退院となった時、自宅退院、他の医療機関への転院、介護施設への入所など様々なケースがあり、医療分野だけでは対応出来ず、福祉や介護などの様々な機関と連携を必要とする場面がたくさんあります。そのような時に、患者さまがより良いサービスを利用してもらえるようにサポートを行います。患者さまが住み慣れた地域で暮らしていくための“つなぎ役・橋渡し役”を担い、豊富な知識やコミュニケーションの力を活用し、付加価値のあるサポートをするのが「医療福祉連携士」です。また、患者さまやそのご家族へのサポートだけではなく、地域全体の医療と福祉・介護の連携がスムーズになることも念頭に置いています。

医療・介護等の制度は、一般の方にはなかなか難しいことも多いと思います。ご不明点がある場合やお困りの際は、当院1階(ドールコーヒーさん向かい)の総合医療支援センターまでお気軽にご相談下さい。



医療福祉連携士資格を取得した
 木村医療ソーシャルワーカー(左)
 奥山退院支援看護師(右)

憧れから目標になりました！

高校生が助産師にインタビュー

「将来は助産師として働きたい。」という目標をもつ市内の高校生が当院を訪れ、助産師のやりがいや業務内容などについて当院で助産師として勤務している歌代助産師にインタビューを行いました。事前に助産師や周産期医療について調べ学習をしている様子で、質問の内容からも漠然と助産師を目指しているのではないことが伝わってきました。また、歌代助産師が話す言葉の一語一句を大切に聞きながらメモに書き込む真剣な姿がとても印象的でした。インタビューを受けていた歌代助産師から「どうして助産師を目指しているの？」との逆質問に『私の妹が中央病院で生まれ、その時に見た助産師さんの姿に憧れたからです。』と、大変嬉しい回答してくれました(笑)。

近い将来、当院の助産師として一緒に働けることを楽しみにしています。頑張ってください！



高校生とインタビューを受けた
歌代助産師



函館マラソンに出走！！

七夕の7月7日(日)に開催された函館マラソン大会に当院マラソン部(呼称:中病ランナースクラブ)のメンバーら多数が参加し夏の函館を激走しました。また、医師や看護師らの医療スタッフから数名が大会を支えるメディカルランナーとして参加しました。

当日はベストタイムを目指す者、エイド地点で栄養補給のために提供されるフードを楽しむ者、途中でタイムアップとなり脱落する者など、それぞれがマラソンを楽しんだようです。



函館野外劇に当院スタッフが毎年出演

市民創作劇として知られる「函館野外劇」が今年も開演となりました。実は当院スタッフも数名が毎年出演させて頂き、他の出演者や観客の皆さまと一緒に感動を味わっております。劇のフィナーレで流れる曲「星のまち Hakodate」は一度聴くと自然と口ずさんでしまうとても素晴らしい曲です。私たちの函館の歴史を感動とともに学べる歴史スペクタクルです・・・



出演している当院スタッフ



ワッショイはこだて(8/3)参加します！

今年も港まつりワッショイはこだての港踊り【8月3日(土)】に参加します。昨年逃したコンテスト優勝を目指し一丸となって一生懸命楽しく踊ります！沿道からの応援よろしくお願い申し上げます。



新任医師紹介

7月1日より当院整形外科に赴任しました田中医師です。よろしくお願い申し上げます。

日本整形外科学会 専門医、脊椎骨髄病医、
運動器リハビリテーション医



整形外科医長
田中 将 医師

【患者さまの権利】

- ・安全で良質の医療を平等に受ける権利
- ・自らが受けている医療について、十分な説明を受け、知る権利
- ・セカンドオピニオンを求める権利
- ・自らが受ける医療に参加し自己決定する権利
- ・個人のプライバシーが守られる権利
- ・個人として常にその人格、価値観が尊重される権利

【患者さまの義務】

- ・自らの健康状態を医療者にできるだけ正確に知らせる義務
- ・医療者の説明や自らの疾病状態の理解に務める義務
- ・病院の規則や医療者の指示に従い、医療に参加・協力する義務
- ・他の患者さまの治療や医療者の業務に支障をきたさない義務
- ・受けた診療に対し、医療費を支払う義務



セカンドオピニオンのご相談は・・・

総合医療支援センター(中央棟1階)へ
お気軽にご相談下さい。

『電車どおり』では、皆さまのお役に立ちそうな情報をどんどん掲載していく予定です。記事に対するご要望などがございましたら、広報誌担当事務局までお問い合わせ下さい。

連絡先: TEL 0138-52-1231 (内線 2263)

次号発行予定は8月25日です。お楽しみに！！